

# 竹を利用した林道切取法面の草抑え

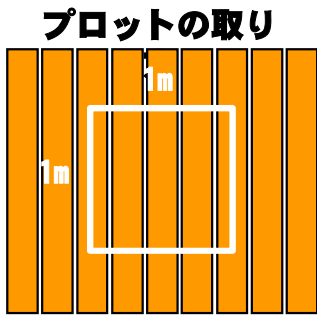
鳥取県林業試験場 木材利用研究室

近年、竹を伐採して利用することが少なくなり、隣接する山林に竹が侵入するなど放置竹林の被害が増加しています。竹林の拡大を防ぐには、伐採等による防除と併せて、竹材のさらなる活用を図る必要があります。

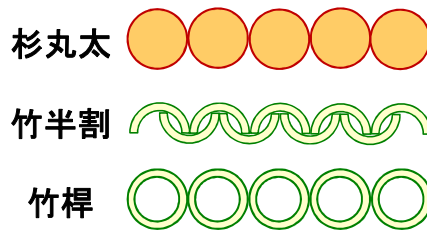
当試験場では、竹の新たな用途として、林道の切取法面の草抑えに使われている杉丸太に代えて、竹樺、半割した竹(以下、竹半割)を使った、切取法面の草抑え効果について6年間にわたり試験を行いましたので、この結果について紹介します。



## 方法



### 材料と並べ方



切取法面に杉丸太、竹半割、竹樺を敷き並べ(2m×2m)、その中心に1m×1mのプロットを設定した。試験は平成20年～25年(当年度～5年後)に行い、杉丸太、竹半割、竹樺の目視調査と、プロット内部より発生した草木がプロットを覆った面積を測定し**植被率**を求めた。

$$\text{植被率(\%)} = \frac{\text{プロット内の葉の合計面積}}{\text{プロットの面積}} \times 100$$

植被率が高い…「草抑え効果が小」  
植被率が低い…「草抑え効果が大」

## 結果

目視調査 …5年後において、**竹半割**と竹樺に腐朽はみられなかった



杉丸太は腐朽が進み、繊維状に崩れ始めていた



竹半割と竹樺は、日光による変色や微細な割れがみられる程度

植被率 …**竹半割**が最も高い草抑え効果を示した

